

組合だより

第42号

11月11日
2002年

発行所
岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市津島中2-1-1
電話 086-252-1111(代)
(内線) 7168
直通・FAX 086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

特集 教研集会への挨拶

40号で9月の教研集会の概略をお知らせしました。このほど全大教教研史上初めてとなる地元大学学長の歓迎挨拶と、

実行委員長挨拶をご紹介します。小見出しは、「組合だより」編集部が適宜つけたものです。

河野岡大学長挨拶

ただいまご紹介いただきまして岡山大学の学長をしております。河野でございます。本日は、日本各地から多数の方々が、岡山、あるいは岡山大学にいらしていただきまして大変ありがとうございます。岡山大学を代表して心から歓迎を申し上げます次第です。



歓迎挨拶の河野伊一郎学長

第三の大学維新

今回の全大教の教職員研究会のメインテーマは、国立大学の法人化と大学改革、ある

いはそれに関連するいろいろな問題であろうと想像いたします。また見せていただいたプログラムにもそのような



看板と、のほりて歓迎

な内容のことが示されております。

言うまでもなく、いま日本の大学は大転換期に来ているという認識は共通のところだろうと思えます。その一つは、国立大学の法人化という形になって表れてきているという解釈もできます。それも含めて、日本が国際社会に置かれている状況、使命、また日本社会の変化、若者の意識の多様化等々があります。私の年代の人間は数パーセントが大学で勉強している時代でし

たが、どんどん変わりました。今は約半分が大学に入って勉強する時代になっていきます。そういう変遷に対応して最近十年で大学の状況、あるいは内容、必要性が大きく変わるべきであったところが変わっていないところが非常に問題があるわけですが、個々に申し上げませんが、そういう意味で、よく言われているように、近代日本になつてからの第三の大学維新でなければならぬ。明治に帝国大学ができて、戦後に新制大学ができた。そして今こそそういう意味で第三の維新にならないければならない。こういう認識をお互いに持たなければならぬと思っております。

安易な妥協でなく

本会のご案内を、加藤実行委員長並びに小畑岡山大学の委員長からいただきました。大変うれしく思いました。先程委員長からも

話がありましたように、立場は違いますが、お互い大学をよくするためにがんばる、協力することはもちろんです。それは決して安易なる妥協ではないことは、お互いによく確認をしております。もちろん戦争しているわけではない、敵対しているわけでもありませんから、安易な妥協をすることなく、緊張感を持ってこれからお互いに議論を進めていって、その結果、大学が立派なものになればいい。こういうふうと考えております。

私の組合活動

私も若かりし頃に組合活動をいたしました。執行委員ではありませんでしたが、非常に楽しく活動していた時代を懐かしく思います。当時、私は京都大学にいたんですが、学生紛争が大変激しい時代でした。それが終わって大学の方向がどうなるのかと、われわれ若い教官は非常に不安を持っておりました。そういう意味では共通の状況にあると思えます。私は当時の執行部にも非常に激しく物事を言ったりしました。しかし終わってからは、執行部の人とよく酒を飲みにも行きました。それは決してそこで妥

協したり取り引き話をするわけではなくて、同じ職場の同僚としてよい人間関係ができたように感じています。余談で申し訳ありませんが、私の両親は農業をしており、非常によく働く人間だったんです。お互いよく議論をいたしました。そして翌日には二人で仲良く仕事に行く。よくあんなことができるものと、子供の頃、私は不思議に思っていました。そういうことと重ね合わせながら、お互いに大学をいいものにしたと考えると、立場が違えば見方も違う。その時は真剣に議論し合って築き上げていくものであると思っております。

国大協の活動

先程から委員長や実行委員長のお話にもありましたが、岡山大学はそういうことでお互い緊張感を持つて議論をしております。いろいろなお話がありますが、国立大学の法人化について、国大協において大いに議論をしております。国大協会長の京都大学の長尾学長は私の高校時代の先輩です。副会長の古屋大学の松尾学長は学生時代に机を並べて勉強した問柄ですから、私もいま理事とし

て一生懸命いろいろなことを発言しています。いくつかありますが、平成16年には法人化が既定事実ということも言われています。私もそう思います。しかし、現実には、法人化についてこれまでまったく国会の正式の場では議論されていません。それなのに一方では文部科学省があれもこれも各大学で準備しなさいと言う。文部科学省としては現段階ではどういう準備をしているのか。先程職員組合から、学長にもつと情報公開しろという話はおっしゃったとおり、私もはもつと文部科学省が具体的にこういふことをいまい度設計として準備している、これを法案とするんだという情報公開をもつとしてほしい。1か月ぐらい前に尾会長談話として、文部科学省はもつと具体的に、いま準備している情報提供してほしいと申し入れをしていきました。

は百歩譲ってしようがないけれども、事務系職員の場合、例えば採用の件とか人事交流とかいろいろな面を考えれば、公務員型で残さなければならぬというのを国大協で強力に主張しております。しかし、結論はご存知のとおりです。そういうことであればそれを前提に、国大協では職員の採用方法をどうするのか、人事交流のシステムをどうするのか、研修をどうするのか、あるいは就業方法や待遇をどうするのか、国大協をどうするのかという検討会も鋭意やっております。

若い人に意欲を

国大協としても大学をよくするために一生懸命やっています。若いうちから、職員組合の皆さんから厳しいご意見、見方を聞かせていただいて、改めるところは改めなければいけないと思っております。お互いに厳しく意見を交換しつつ、しっかりと大学をつくり、日本のため、国際社会のために貢献していくという理想は高く掲げなければなりません。そして、いまの若い人達が将来に希望を持っていない、夢を持っていない、一番深刻で重要な問題だと思っております。学力の低下が問題となっており、人間、夢や希望がなくなったらエネルギーが出てきません。勉強する意欲の問題です。



挨拶する加藤実行委員長

加藤実行委員長挨拶 「晴の国」へようこそ

学力は知識だけではなく、勉強しようとする意欲が大切です。そう、そういう大学・高等教育をしていくためにはお互いに努力していきたくて、強く念願しております。いろいろ申し上げましたが、この会が盛会になりました。実りあるものとなり、ますますの祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

皆さん、こんにちは。岡山大学へようこそ。お会いできて良かったです。今回の教研集会の地元実行委員会の委員長を務めております加藤です。地元を代表して歓迎のご挨拶を申し上げます。岡山を簡単に紹介させていただきます。通称「晴れの国」と言われ、降雨日数が非常に少なく、太陽の恵みを受けて、ブドウ、モモが特産品になつています。ただ晴れすぎるのも問題があり、今年の夏は雨が少なく、倉敷の高梁川の水不足が懸念されています。ただ岡山の水源である旭川は非常に懐の深い川でして、まったく

心配ありません。3日間安心してご滞在いただければと思います。古い歴史もあります。それから、岡山という後楽園、あるいは倉敷の美観地区が有名なところになります。いずれも江戸時代にさかのぼる名所です。それ以前の岡山にもずいぶん活躍していた時代があり、古くから、この近辺には主要古墳だけでなく、吉備の国は和朝廷に匹敵するような勢力を誇っており、場合によっては大和朝廷

を排除したのではないかと、この説もありません。もしも時間がありましたら、吉備のほうにもおいで下さい。造山古墳という日本第4位の規模の古墳があり、当時の繁栄ぶりを偲んでいただくことができます。また独法化、非公務員型がほぼ決まってしまうという中で、教職員の雇用問題が出てきました。名大ネットには総長発言として、「教職員の雇用の継続は基本原則」「定員外と定員内の差別はしない」という明快な意思表示がされています。本学では、今年の3月末に事務局長名の文書が発信されまして、「平成15年度から日々雇用職員は原則として雇用しない」旨の通達が出されました。組合としては事務局長との会談を行い、事務局サイドから、「可能な限り、雇用を確保する方向で努力したい」という発言を得ることができました。以上が岡山大学職員組合の現状です。この激動期に北は北海道から南は沖縄まで、77大学、約190名のご参加を得たことは、たいへん意義深いことです。今日から3日間熱心にご議論いただき、熱心にご議論いただき、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。(拍手)

お知らせ ホームページが新しくなりました。 <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion>

徐々に充実させていきます。

教職員共済の交通災害共済新規加入のおすすめ

共済期間 2003年1月1日～2003年12月31日
 申込期限 2002年11月20日までに申込はがき投函
 各種パンフレットは組合事務所にあります。

交通事故だけじゃない
 普通のケガでも・・・